

Economic Monitor

所 長 三輪裕範 03-3497-3675 miwa-y@itochu.co.jp
主任研究員 丸山義正 03-3497-6284 maruyama-yo@itochu.co.jp

輸出の回復に向けた動きが持続（4月貿易統計）

4月の輸出は、緩やかな回復に向けた動きが継続。米国向けとASEAN向けが拡大を続けているほか、ASEAN向け以外の対アジア輸出にも持ち直しを示唆する動きがみられる。4月の貿易赤字（季調値）は、3月から小幅縮小。輸出回復により、赤字拡大が回避されている状況。

市場予想には届かずも、輸出回復が持続

4月の貿易統計によると、輸出額（名目輸出）は前年比7.9%（3月5.9%）へ伸びが高まった、しかし、市場予想の11.8%には届かず、昨年の東日本大震災による落ち込みからの回復は想定を下回ったと言える。但し、財務省試算の名目・季節調整値では前月比0.5%（3月1.0%）と5ヶ月連続で増加、当社が為替や価格変動を控除して試算している実質ベース・季節調整値でも3.2%（3月1.7%）と増加に転じている。金融危機や昨年の大震災によって、季節調整が不安定となっている点を割り引いて考える必要はあるが、4月の水準は名目ベースで1～3月期を2.1%（1～3月期前期比2.3%）、実質ベースでも2.8%（同0.8%）上回っており、輸出が下げ止まりから、緩やかな回復へ転じつつあるとの評価は可能であろう。

貿易赤字は拡大を回避

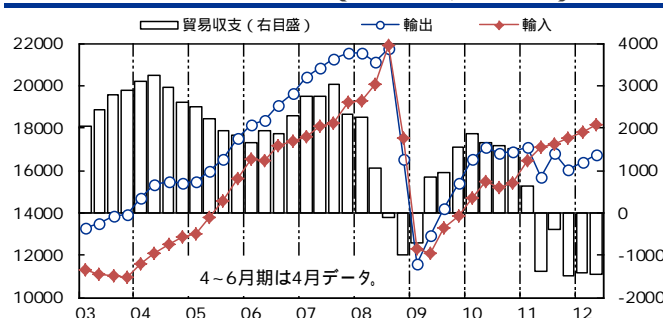
一方、輸入額（名目輸入）は、3月の前年比10.6%が4月は8.0%へ鈍化、財務省試算の名目・季節調整値では前月比1.7%（3月6.3%）と2ヶ月ぶりに減少した。但し、当社試算の実質ベースでは前月比1.2%（3月3.2%）と増加を続けており、4月輸入の鈍化及び減少は価格変動による部分が大きいと言えるだろう。

輸出から輸入を差し引いた貿易収支は、季節要因もあり、原系列では赤字幅が3月の845億円から4月は5,203億円へ拡大した。しかし、季節調整値では輸出回復の動きを映じて、3月6,166億円が4月は4,802億円へ赤字幅が縮小している。原発停止に伴う発電燃料輸入の増加が確実なため、先行きを楽観はできないが、輸出回復により貿易赤字の拡大が回避されている点は重要であろう。なお、当社試算の実質ベースで見ると、4月の貿易収支の黒字幅は、1～3月期対比で9.1%程度拡大した（1～3月期は3.6%拡大）。

メインシナリオは輸出の緩やかな回復だが、欧州リスクが懸念される

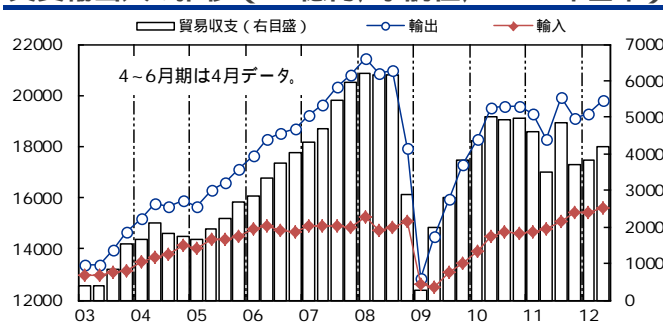
当社は、メインシナリオにおいて、輸出が2012年度前半に緩やかに回復した後、世界経済の回復を受けて年度後半に増勢をやや強めると予想している。但し、欧州債務問題が深刻化し、国際金融市場の混乱や麻痺に至った場合に、輸出が下振れするリスクには留意する必要がある。なお、燃料輸入の増加はあるも

名目輸出入の推移（10億円、季調値）



（出所）財務省

実質輸出入の推移（10億円、季調値、2005年基準）



（出所）財務省、日本銀行

の、輸出回復と資源価格上昇の一服及び円高による輸入価格の低下により、2012年度に貿易収支の赤字幅は幾分縮小すると見込んでいる¹。

当社試算の実質ベース・季調値に基づき、4月の輸出を主要な仕向け地別に見ると、中東向けを除き全ての地域向けが増加した。季節調整が不安定になっている点を考慮し、均して考えるために1～3月期平均と4月を比較すると、米国向けが5.9%（1～3月期前期比3.2%）と引き続き堅調なことに加え、最大のシェアを誇るアジア向けが1.7%（同0.1%）と下げ止まりから持ち直しに転じつつある点が注目される。こうした動きが、輸出全体の基調好転に寄与していると考えられる。

米国向け輸出は拡大基調

米国向けは、引き続き堅調である。上述のように4～6月期も増加し、4四半期連続での拡大を達成する可能性が高い。米国向け輸出の拡大は、言うまでもなく自動車セクターの寄与が大きい。米国自動車市場そのものの拡大に加え、2012年に入ってから日本メーカーのシェア回復も影響している。

アジア向け輸出に持ち直しの兆し

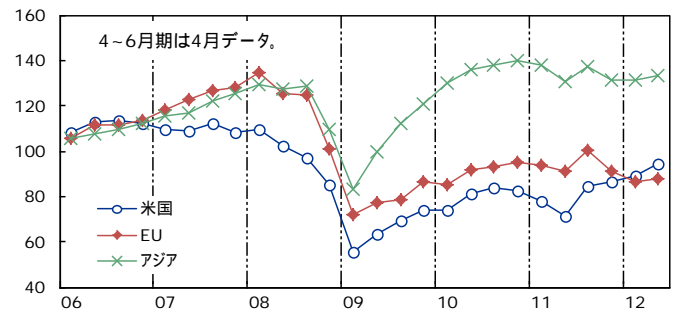
アジア向けは2011年7～9月期に前期比4.5%と大きく落ち込み、1～3月期もほぼ横ばいにとどまったが、4～6月期は持ち直しへ転じる可能性がある。内訳を見ると、まず、タイ向けの資本財や生産財輸出などを中心に、ASEAN向けが4月の1～3月期対比5.8%（1～3月期前期比8.5%）と引き続き堅調である。加えて、機械や金属関連輸出の回復によりNIEs向けが4月の1～3月期対比が1.4%（1～3月比2.6%）と、また、生産財を中心に中国向けも4月の1～3月期対比が0.8%（1～3月期5.3%）と共に下げ止まりつつある。アジア向けが明確な持ち直しに転じれば、日本の輸出全体についても回復に弾みがつく。

EU向けは10～12月期に前期比9.2%、1～3月期も5.0%と2四半期連続で大きく落ち込んだ反動から、4月の1～3月期対比は0.9%と一旦、下げ止まりつつある。但し、欧州経済の先行きは楽観できず、日本からの輸出も再び落ち込む可能性が否定できない。

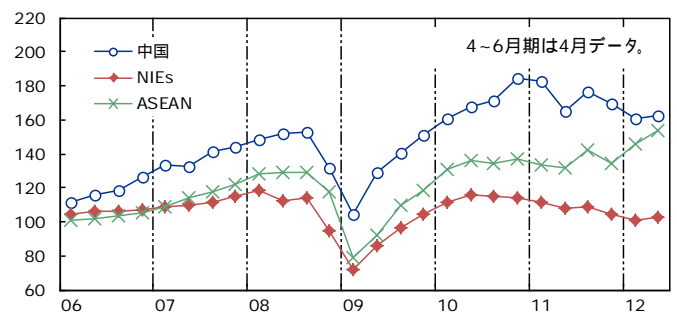
自動車輸入が堅調

実質輸入を品目別に見ると、4月は発電燃料が含まれる鉱物性燃料輸入が引き続き増加したほか、輸送用機器関連の堅調が目立っている。タイでの生産ライン回復などが寄与していると考えられる。

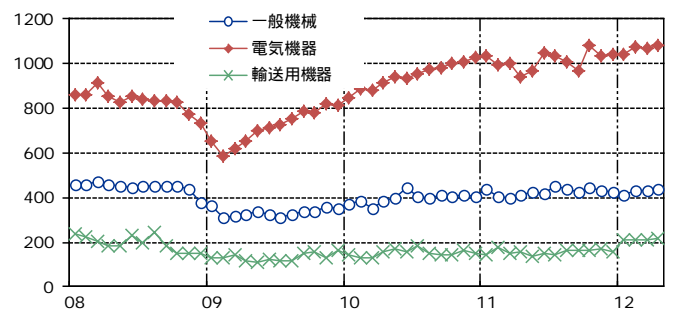
地域別実質輸出の推移（2005年=100）



対アジア実質輸出の推移（2005年=100）



機械関連輸入の推移（実質、2005年基準、10億円）



¹ 詳細は、5月18日付 Economic Monitor「政策効果が支える2%成長（2012・2013年度の経済見通し）」を参照。